





葛國新漢發序言

陸侯氏の遺書

河山道の管がある信松兼近て射獵を業とするは胡國
 の風ちよおひてあり中も女中も飛射して見身も飛の命解
 一毒物れ門口は是非先生の物序を希ふと若くは白羽
 もたをまぬの万八横上り葉知の受込五城乞て物け
 るを下なりくやとくびあつて香國新漢が同屋方好
 病の雨と雪はそこの世に集らぬ人々急作を促し
 傳言合鳥と持て帰る小虫雲河加全跡出まゆり

軍船の海軍人等々々々々々々々々々の顔面を繕うる
の目も亦も其の顔面を繕うる
笑ひのめり
文の屈伸九記
文久えき西年集月

双子ヶ冊
リウウリ



ハルウレウ子
センナ

此書世に横文字を和解して細判を引圖小あけけり
綴文の中同なるもの多し行人物△和を其見ると同様あり理
ふりし畫の耳声の端りと画工を憑るふりけりを見たり人繪
組ふるを繪り人物を知り給るなり

東都忍川市港

築山春信著記





うまひまて
 虎一
 市ぞぶ
 五つ子
 ありけい
 がわる
 附
 うの音子の
 うちせんちん
 とりつとあつとひ
 一せんちんがあつとひ
 底をつけりちるふんうらりか

ち
 父あるハルウルと
 とりつとあつとひ
 底をつけりちるふんうらりか
 毛ウ
 ち
 父あるハルウルと
 とりつとあつとひ
 底をつけりちるふんうらりか
 毛ウ



ままめ
 うまひまて
 虎一
 市ぞぶ
 五つ子
 ありけい
 がわる
 附
 うの音子の
 うちせんちん
 とりつとあつとひ
 一せんちんがあつとひ
 底をつけりちるふんうらりか

ち
 父あるハルウルと
 とりつとあつとひ
 底をつけりちるふんうらりか
 毛ウ
 ち
 父あるハルウルと
 とりつとあつとひ
 底をつけりちるふんうらりか
 毛ウ



花子のおのり
 ついでに
 おんがら
 ておん
 うくおん
 りの
 ん



かん
 らま
 一人のお
 清
 一人の



熱気球
熱気球の構造
熱気球の歴史
熱気球の飛行
熱気球の科学
熱気球の文化
熱気球の芸術
熱気球の経済
熱気球の政治
熱気球の社会
熱気球の環境
熱気球の教育
熱気球の医療
熱気球の法律
熱気球の宗教
熱気球の哲学
熱気球の文学
熱気球の音楽
熱気球の美術
熱気球の科学
熱気球の文化
熱気球の芸術
熱気球の経済
熱気球の政治
熱気球の社会
熱気球の環境
熱気球の教育
熱気球の医療
熱気球の法律
熱気球の宗教
熱気球の哲学
熱気球の文学
熱気球の音楽
熱気球の美術



はるりけり



さよバとそまてどれ
 ぐくろウシヨウ
 つまアアア
 とうアア
 ひそろふ
 せしち
 をり
 をひ
 つぬくき
 ふ風船
 のりてゆわめり
 しく新イスハニヤホ



のりてこまくり
 むづきおよりて
 つりふわあめり
 俣寸知に屋ふ
 つきふ
 ちぬの
 りのこウエヤウ
 とんでおどろけ

ちぬの
 ちぬの



ひろ
 ひろ
 ひろ
 ひろ
 ひろ

ちぬの
 ちぬの
 ちぬの

ちぬの

七



此の鹿は
 鹿の尻尾を
 らんふふふふふふふ
 むらんときんぐらりらら
 コウミヤウヤウくハル
 ここのまきいとうり
 ついこのらふハわがり
 けら此両ふまき
 りくごん殺をつとめち
 千ヤウキとりふのわり
 けらがつふふふふふふふ

鹿

鹿



南亞墨利加
 軍王セキス
 テシ大船

竹竿のうしろ
 中ねとつくり
 ろうふとてゆ
 りのあうふあうと
 わてをせ
 ろうあうふひ



七ノ巻





くらりの
 とまぐさ
 もモウヤ
 ウいそぎ
 かの地ふ
 いさりのひそ
 うふやうまを
 きくおりく代



千ヤウキがら
 ちつまごふのこ
 よろひがふにせんやも
 わりなきはらまひかん
 ぐくおらるるくそーこの
 ころく 國はうユウリキス
 おらるるくけまバセキ
 ステとららるるのふ
 めいしゝあひらんせんを
 むけさあまのあんの
 るのとーくハルウルとをえ
 トルキレルのまゐとよら

えんま

十



仙のうしろに山あり
 けしきもよき水あり
 伊予和仁屋の同士の千ヤウキ
 こゝろに入て今あむありうりらん
 せんといけりまきさし〜〜
 けしきもよき水あり
 せんモロシマウのらむひらるせん千とららんあある〜
 せん



田中



一筆破工仕以附尔福林夜

夜百產以游尤益冲機始能

捷百產理重之四六在存以次挫毫

無事千既有中一以祭及悻世及也之

果百之於下以地年回累年之通了

禮百度以當節初四光身年以年以

易經卷之

